

研究・調査報告書

報告書番号	担当
85	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Current alcohol consumption and its relationship to incident dementia: results from a 3-year follow-up study among primary care attenders aged 75 years and older. 高齢者における飲酒量と認知症の関連について3年間の追跡結果における検討	
執筆者	
Weyerer S, Sch ̄, ufele M, Wiese B, Maier W, Tebarth F, van den Bussche H, Pentzek M, Bickel H, Luppā M, Riedel-Heller SG; German AgeCoDe Study group (German Study on Ageing, Cognition and Dementia in Primary Care Patients).	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Age Ageing. 2011 Jul;40(4):456-63.	
キーワード	
飲酒、高齢者、認知症、アルツハイマー、前向き研究	
要 旨	
目的： 高齢者における飲酒量、アルコールの種類と認知症の発症について検討する。	
方法： 75歳以上で認知症に罹患していないドイツ人3202人を対象に、1.5年後および3年後に飲酒量とDSMIV分類の認知症に関する内容を含めた面接調査を実施した。コックス比例ハザードモデルを用いて、認知症発症の多変量調整ハザードを1日当たりの飲酒量と飲酒の種類別（ワイン、ビール、混合）に算出した。	
結果： 平均追跡期間は3年の間に、3202人のうち、217人に認知症の発症を確認した。50%は飲酒者であった。飲酒者の認知症発症の多変量調整ハザードは0.71(95%信頼区間0.53-0.96)であった。アルツハイマー発症の多変量調整ハザードは0.58(95%信頼区間0.38-0.89)であった。飲酒量は認知症の発症と負の関連を認めた。また、いずれの種類のア ルコールも認知症の発症と負の関連を認めた。	
結論： 75歳以上の高齢者においても75歳未満における検討と同様に、少量から中等症の飲酒は認知症の発症と負の関連を認めた。	